

## 財務・原価管理システムの コンピューター導入所感



東京本店  
木村 秀美

札幌本社から本店へ転勤して実感したことは、本店業務の仕事量の多さ、日常業務の他本店としてしなければならぬ作業を考えた場合、その業務におわれその日が終わる。その結果その他の業務が遅れる。要するに、手作業による業務では仕事に追いかける毎日であり、仕事は追いかける余裕を持つことが大切ではないでしょうか。データ集計にも時間

がかかり過ぎる。そうすると日常業務も遅れ遅れになる。この様な仕事内容では全く進歩がない。現在は変化より変革、改善よりも改革の時代ではないでしょうか。また、情報社会のニーズに答えられる様、迅速なデータの集計、判断、方向づけということが必要になってくるのではないかと考えます。では何にたよらざるを得ないかを考えた時コンピューター化の問題が取り上げられるのは当然のことであろうと思います。財務に関しては一環として手作業によるところから、会社創立五十周年でコンピューター化の導入が計られたことは非常に意義のあることではないでしょうか。

提案から導入迄には、いろんな角度からの打合わせ或いは大小様々な問題点をクリアしながら進めてきたこと、また必要としている結果が出力されるなら当社のシステムを変えていくことも考えなくてはなりません。導入に当たって一番の問題点は工事原価のデータコンバージョンであります。起動に乗せ走らせてからも問題は必ず出てくると考えています。が、全員が協力して進めなければ成功には至らないと思います。

コンピューター化では、データの有効活用、人材の早期戦力が計れ、また経営

資料の迅速な提供により問題提起、解決の糸口が発見出来、どの様な方向づけをすべきか判断資料として大きな効果があります。このことは長期的な見地から考えた場合マネジメント（管理制度統制システム）及びプロセスシステム（業務処理システム）を重点に進めることが重要であると考えます。また経営資料の迅速な提供にあたっての時間短縮、支払処理の時間短縮等といった定量的効果があります。

そしてシステムの将来的構想を考えると、情報データベースの構築、各部署データ連携による間接業務の省力化、社会への情報戦略対応、或いは会社全体の経営方向と意思決定が可能であり時期事業計画の早期策定等可能な限り実現させることであると考えます。

全店をオンライン化することで、各店別の情報交換或いは、統一された処理等を考えた場合、インターネットの標準となつてくる通信手順、技術を利用して構築する社内コンピュターネットワークであるインラインネットを確立させ、社内コミュニケーションを加速させることが必要であると考えます。